


政策6 平和・友好交流の推進

施策1 平和施策の推進

事務事業の概要					
事務事業名称				重点テーマ	担当課
平和施策推進事業				「安心・安全」のまちづくりの推進	政策推進課
予算科目			決算額(円)		
会計	款	項	目	347,433	
一般	2	1	6		
目的					
平和の尊さやいのちの大切さ考える機会を提供することにより、市民の平和意識を喚起します。					
内容					
戦争体験を振り返り、平和の尊さやいのちの大切さを改めて考える機会として、「平和を考える市民フォーラム」の開催や平和を祈る折り鶴の募集などを行います。					
					

事務事業の目標と成果						
目標指標と実績						
平和施策の参加者を維持または増やします。						
現 状 (計画策定時)	年度	23	24	25	26	27
4,598人 (平成23年度)	目標	3,820人	3,850人	6,000人	6,050人	6,100人
	実績	4,598人	6,087人	4,153人	3,970人	
平成26年度の事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> 7月19日(土)に「平和を考える市民フォーラム'14」を開催しました。(参加者数延べ1,479人) ○平和祈念碑(JR駅前)での献花式 ○式典(中学校吹奏楽部の演奏、高校生演劇部の劇、小学生の学習発表など) ○映画上映、スクリーン紙芝居(京都西山短期大学による) ○戦中戦後食すいとんの試食と資料展示 ○昔のくらしとおやつ体験コーナー(石臼ひき、米つき、はったい粉の試食など) ○絵本の読み聞かせ ○平和メッセージの展示(平和フォーラムに参加した小中高生・折り鶴作成者などによる) ○平和に関するポスターの展示(高校生による)などを行いました。 平和を祈る折り鶴を募集し(参加者数2,216人)、集まった折り鶴はフォーラムの献花式で「平和の碑」への献納後、広島市の原爆の子の像へ献納しました。 7月に平和のシンボルマーク入り啓発物の展示を行いました。 アメリカ合衆国による核性能実験報道に際し、11月5日付で抗議声明を発表しました。またホームページにも抗議文を掲載しました。 市のイベント(ガラシャウィーク(11月1日～9日)・人権を考えるつどい(12月6日))で平和に関するパネルの展示をしました。 						
平成26年度の達成状況						
年度目標の達成状況		達成できなかったが、最終目標は達成する見込み				
<ul style="list-style-type: none"> 平和フォーラム参加者数1,479人、折り鶴参加者2,216人、平和に関するポスター作成者を含むその他の参加者275人となり、全体の参加者は3,970人と目標数値には届きませんでした。昨年度とほぼ横ばいの数字になっています。 アンケートでは、フォーラムに初めて参加した人が36%で、新規に参加された人の割合は昨年度より減少しましたが、「フォーラムに参加して平和について考えるきっかけとなった」と回答した人は87%あり、平和啓発に一定の成果がありました。 小学生に対し、戦争を知る世代との学習会を行い、その内容をフォーラムで発表してもらうことで平和への関心を深めました。また、中学生の吹奏楽演奏、高校生の演劇発表、平和に関するポスター作成、小中高生の平和メッセージの参加などを通じ、若年層への平和啓発に努めました。 平和のシンボルマーク入り啓発物を市内各所に掲示することに加え、平和への取り組みパネルの展示を各種イベントで行うことを通して、神足空襲や平和の日について周知することができました。 						
課題と今後の対応						
<ul style="list-style-type: none"> 戦争を知る世代が減っているため、次世代への継承が難しくなっています。積極的に市内の小中高校に啓発活動を行います。 戦争体験者の記憶を語り継ぐ方法を考えるとともに、戦後混乱期を知る世代の証言も伝えていきます。 						

政策6 平和・友好交流の推進

施策2 友好交流の推進

事務事業の概要					
事務事業名称				重点テーマ	担当課
友好交流事業				文化に親しみ、教養を深める機会を創造する「文化力」の向上	秘書課
予算科目			決算額(円)		
会計	款	項	目	6,333,059	
一般	2	1	11		
目的					
友好・姉妹都市との交流の促進により、異なる都市の文化と郷土の文化を理解する機会を提供します。					
内容					
友好都市・姉妹都市との間で訪問団の派遣や受け入れを行います。					



事務事業の目標と成果						
目標指標と実績						
友好交流事業への参加者数を維持します。 年度により変動があるため、人口の1%にあたる800人以上を維持。過去5年間平均：638人						
現 状 (計画策定時)	年度	23	24	25	26	27
861人 (平成21年度)	目標	800人以上を維持	800人以上を維持	800人以上を維持	800人以上を維持	800人以上を維持
	実績	1,555人	987人	1,103人	977人	
平成26年度の事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・アーリントンとの姉妹都市盟約締結30周年記念式典への友好代表団及び市民訪米団の派遣と青少年訪問団の受入、寧波市への市民訪中団の派遣と文化訪問団の受入、伊豆の国市からの市民団受入と伊豆の国市への市民団の派遣を行いました。（参加者延数：349名） ・長岡京市友好交流協会などと協力して語学講座や料理教室、講演会等事業を実施しました。また、ガラシャ祭には伊豆の国市訪問団も参加していただき、友好姉妹都市をPRしました。（参加者延数：307名） ・伊豆の国市との職員相互派遣や、スポーツ交流などを行いました。（参加者延数：321名） 						
平成26年度の達成状況						
年度目標の達成状況		達成できた（目標の100%以上）				
<ul style="list-style-type: none"> ・アーリントンとの交流においては、姉妹都市盟約締結30周年を記念して友好代表団及び市民訪米団の派遣と青少年訪問団の受入など相互訪問や交流会が行われました。また寧波市との交流において、相互訪問や文化面での新たな交流が行われました。 ・継続的に事業を行うことで、各種事業に安定的に参加があったため、目標を大幅に上回り、市民の豊かな国際感覚や郷土に対する理解・愛着を育んでもらうことができました。 						
課題と今後の対応						
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の友好交流や国際理解を深めるため、引き続き長岡京市友好交流協会と連携を図り、多くの市民が参加し、友好交流・国際理解が進展するような事業を企画する必要があります。また、協会活動の活性化、幅広い年代への広がりが、喫緊の課題となっています。 ・アーリントンを訪問した中高生が、帰国後、市の友好交流事業に参加し、市民の国際理解に対して役割を担うようなしくみ、企画が必要です。アーリントンを訪問した中高生などが、積極的に市の友好交流事業に参加できる手法を検討します。 ・あわせて、同協会が独立した運営形態へ移行できるように、人材育成に努めるとともに、協会の会員増強および活動に関する市民の理解を深めるため、インターネット等の活用方法（ホームページの作成等）について、導入に向け、引き続き検討します。 						